演題8．Multidetector-row CT (Aquilion®) の使用経験と臨床統計的検討

○星野　正行，泉澤　　充，佐藤　　仁，
東海林　理，卯城　敏隆，近藤　大輔
前川　滋臣，守口　　斉，小豆嶋正典
坂巻　公男，中里　龍彦*，玉川　芳春*

岩手医科大学歯学部歯科放射線学講座
岩手医科大学医学部放射線医学講座*

平成12年4月から平成13年3月までの1年間に本学歯学部付属病院で東芝メディカル社（東京）製 Aquilion®にて検査を施行した男性232例（2～87歳　平均52.2歳），女性236例（6～89歳　平均50.2歳）の計468症例（2～89歳　平均51.2歳）について検討した。

外来患者では301例中165例と女性が多く，入院患者では167例中96例と男性が多かった。月別症例数では9－10月に若干検査数が減少したが，検査数は現在月あたり40－50件であった。検査部位別では頭頸部が447件でありその他の部位は数件であった。診療科別では外来患者は口外1，口外2で全体の8割以上を占め，矯正科，歯放科の順であった。入院患者では悪性腫瘍患者が大部分を占めていた。疾患別では外来患者では顎骨内嚢胞74例，悪性腫瘍57例であった。

GE横河 Medical 社（東京）製 Proceed®で撮像し DentaScan®で再構成した画像と Aquilion®で撮像し Dental MPR で再構成した画像を比較した。Dental MPR 画像の方が鮮明に骨稜構造を描出可能であった。またパノラマ写真で不明瞭な部分の描出も可能であった。surface rendering は骨折線の方向等を明確に描出可能であった。CT angiography を使用することにより侵襲の大きな血管造影をする事なく，動脈の蛇行，屈曲の有無を調べる事が可能であった。

平成12年4月から平成13年3月の1年間において歯学部付属病院で Aquilion®にて検査を行った468例について臨床統計的検討と再構成画像の評価をし以下の結果を得た。

1）入院患者では悪性腫瘍が多く，外来患者では顎骨嚢胞，悪性腫瘍が多かった。

2）高速スキャン可能な Aquilion®の導入により，Dental MPR や CT Angiography 等の臨床的に有用で高度な診断が可能になった。

演題9．根管治療への手術用双眼顕微鏡の導入

○中島　　薫，関根　慶子，工藤　義之
久保田　稔

岩手医科大学歯学部歯科保存学第一講座

根管治療は，狭い術野の中，手指の感覚に頼って治療を進めざるを得ない部分が多く，歯科治療の中でも特殊性が高い分野である。これまで視覚的な情報を得るための様々な機具が根管治療に導入されてきたが，特に手術用双眼顕微鏡（以下手術用顕微鏡と記す）が近年では注目されている。

手術用顕微鏡は，歯周治療や歯冠修復にも応用が可能であるが，細かい操作が要求される根管治療には特に適していると思われる。実際に根管内異物除去に応用したところ，手術用顕微鏡下では明るく拡大された状態で術野が確保でき，デンタルミラーの像と手指の感覚を頼りとする従来までの治療方法とは比較にならない程良好な治療環境が得られた。また，付属の撮影装置で得られた術野の映像をモニターに写すことで，複数の人が術者と同じ視点で治療をリアルタイムで見学でき，臨床教育や患者さんへの説明にも非常に効果的と思われる。

今回の報告から，手術用顕微鏡を根管治療に導入することで，治療の確実性が向上し，また，術野の確認が容易になると共に，無理な姿勢をとらずに治療が行えるため，術者に与えるストレスも減少できると考えられた。